

今ある想いを書く 想書家西田みなのる (46)

ありがとうを伝えたいから



魚津市末広町の西田美さん、人が心に抱えるさまざまな想いをそのまま文字に表す「想書」を描く。作りあげた作品は、これまで一万元以上。敏腕サラリーマンから鬱病を経験するも、もともと人と向き合おうとする姿勢が、多くの人の心に響く。想書とは、西田さんの作品を指す造語。丸みをおびた独特な毛筆書きで表現する。例えば、人名からその人を表す詩（名前詩）を作ったり、相手の思いを代弁したり。



絵の具で挿絵や背景を描くこともある。二十、三十代のころは、東京の大手人材会社や複数のベンチャー起業で活躍。ある会社では、売り上げを四年間で十二倍の二十四億円に拡大させたことも。一方で、その原動力は毎日の飲酒。「ガソリンを入れるように飲んでいた」。周囲には、夢を叶える人がたくさんいた。「前向きな気持ちを持続させ、追い付きたかった」体も心も無理が来ていた。

三十八歳で鬱病とアルコール依存症を発症。働くことが難しくなり、故郷の富山に戻った。二年間何もできず、そんな自分に嫌気がさし、包丁を胸に突き刺したこともあった。ある時、小学二年生のころに使っていた漢字の練習ノートを部屋の片隅で見つけた。ノートの隅には「今日は漢字を四時間ががんばった」の文字。「そんなにも長い時間、一生懸命頑張っていたんだ」。涙がほほを伝い、胸の奥で動く悲しみに気付いた。「これまで頑張って人生を送ってきた。なのに、今の状態は何だろう」。自らを俯瞰し、気持ちを見つめられた。その後、次第に自らの気持ちに向き合うように。初めて自然と出てきた言葉は、「比べて喜ぶ心。比べて落ち込む心」。良いことにも、悪いことにもウソをつかない、正直な二つの感情だった。心に浮かんだ言葉を描きたい欲求は止まらず、何枚も描き続けるようになる。ありのままの自分に向き合えるように。知人から作品が欲しいと声がかかり、マスコミでも取り上げられ評判になった。想書作りは、相手と一対一で向き合って話すカウンセリングの作業でもある。

新しい趣味始めるなら

想書家みなのるの筆文字講座



好評中です！
お気軽にどうぞ

人の心に触れるため、心理学も学び、関係する資格も取得するなど、その技術を磨いた。全国から注文が殺到するようになった。「想い」とは心にあるさまざまな感情。その人の今の想いそのままがここにあるということを描きたい」と話す西田さん。



みなのるの文字がお墓になりました。

描くうちに、人の想いに触れ、人が好きなことに気づいていったという。「自分が今ここにいるのは、【よっぽどの事】。だからあなたがここにいるのも【よっぽどの事】」。昔は言われたかった「ありがとう」を、今は言いたい」と、お日様みたいにほほ笑む。

お問い合わせ

検索 **名前詩みなのる**
うつ病無料カウンセリング
検索 **心の広場とやま**
〒937-0059
富山県魚津市末広町 7-12
tel : 090-1555-7267
mail : minyo716@nice-tv.jp

more! more! 気になる活動をチェック!



5人くらいのイベントから出張可能。名前詩ブースには毎回多くのファンが駆けつける。



即興！巨大ポエムパフォーマンス。ご要望があったらやっちゃいますよ！

講演依頼



自らの体験をもとに参加者が実践したくなるような、心に響く講演会を展開中。